

1. 外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く福島県の状況



(平成26年12月末日現在)

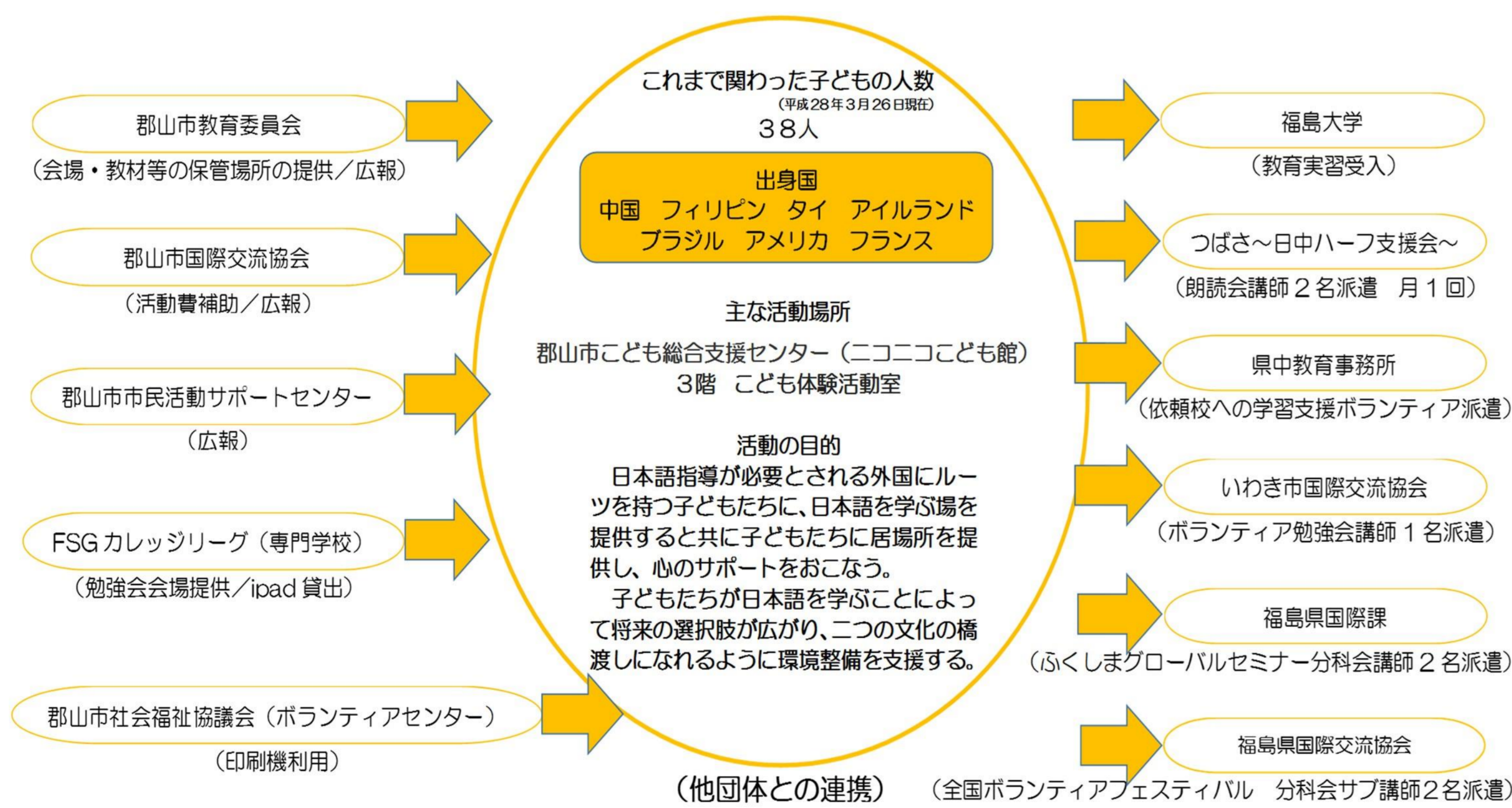
福島県内在留外国人数 9,963人。
 在留外国人が福島県人口に占める割合、0.51%、
 全国平均 1.6%の3分の1にも満たない。
 福島県の面積は全国3位と広いうえに、外国人散
 在地域であり、30～40代のアジア系女性が著し
 く多いのが特徴である。
 外国人散在地域であるが、県立高校入試には来日
 3年以内の生徒に特別枠があり、帰国・外国人生徒
 に対し入学者選抜において特別な配慮がなされてい
 る。

2. こおりやま日本語教室の概要



設立：2013年5月
 目的：外国にルーツを持つ子どもたちの
 「自己実現」を支援する
 対象：郡山市とその周辺市町村に在住する
 外国にルーツを持つ子どもたち
 開催日：毎月第2・第4土曜日14:00～16:00
 会場：郡山市ニコニコこども館3階
 体験活動室
 学習者：平成28年3月現在16人
 ルーツ：中国10名、フィリピン5名、タイ1名
 参加費：1,000円（5回分）
 指導内容：日本語初期指導から受験対策、教
 科指導と学習者のニーズに対応し、教
 材は各地で開発されたリソースを活用
 している
 約30名のボランティアと学習者とのマッチ
 ングは役員が決め、指導内容はSNSを活用して報
 告しあい情報を共有している

地域連携



教室風景



読み聞かせ



多文化キッズキャンプ



3. 来日間もない生徒の進路指導における実践報告

事例A

母語：タイ語 家での会話は日本語
 来日：15歳
 進路希望：高校進学
 指導内容：学習・作文 面接 教科
 願書手続き 進路ガイダンス 多文化キッズキャンプ参加
 課題：既卒のため日本の中学校に編入できない
 同年代の友人と話す機会が少ない
 進路：特別枠受験にて1度目不合格
 隣町の日本語学校で学び 2度目合格 全日制県立高校

事例B

母語：中国語 家での会話も中国語
 来日：14歳 中学3年に編入
 進路希望：高校進学
 指導内容：作文 面接
 多文化キッズキャンプ参加
 課題：日本語を習得しないうちに受験を迎えてしまい、基礎が十分
 でない状況で通信制に入学
 進路：県立高校不合格 私立高校通信制入学

事例C

母語：タガログ語 家での会話もタガログ語
 来日：17歳
 進路希望：就労
 指導内容：コミュニケーションのための日本語
 課題：両親が共働きなので、日中一人で過ごし、話し相手がいない
 月2回の教室では日本語の習得が課題
 ハローワークで就活したが面接にも結び付かなかった
 進路：紹介で面接試験に至り、現在アルバイト中

4. 今後の課題

・県立高校に不合格だった場合の支援

県立高校の受験に不合格となり私立の通信制高校に進学したBは課
 題を抱えている。

毎日登校するという形式ながら、一般の授業スタイルではない通信
 制の制度上仲間との交流も少なく、日本語も上達できないという課題
 を抱えている。

県立高校を目指して日本語を学習し再度挑戦するという選択肢も考
 えられた。進路についてまではアドバイスする機会がなかった。

支援する側と中学校や教育委員会との連携がどこまでできるのか。

・就労希望の場合の支援のあり方



研究協力者：中川祐治、永島恭子、奥秋和夫

QRコード

